

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	大阪府
推進地域名	大阪市

## 1. 事業推進の体制

- (1) 栄養教諭を中核とした食育検討委員会  
教育委員会、大阪市健康局、実践中心区の校長及び栄養教諭、大阪市PTA協議会等で構成する。
- (2) 推進地域
  - (ア) 大阪市全域で、栄養教諭・学校栄養職員の専門性を活用した授業や保護者を対象とした啓発活動を行う。
  - (イ) 実践中心区の栄養教諭を中核として、栄養教諭未配置校へのはたらきかけや区役所等と連携しながら地域における食育の活動を行う。

## 2. 事業内容

### テーマ1 学校・家庭・地域への効果的な普及啓発を行うための方策

#### ◎ 実践中心区（城東区）における取組

- (1) 栄養教諭未配置校への食育推進（出張授業における食に関する指導の実践事例）

- 第1学年 「すききらいをしないでたべよう」 「いろいろ食べて元気になろう」
- 第2学年 「食べ物のはたらきを知ろう」 「朝ごはんをたべよう」
- 第3学年 「おやつについて考えよう」 「よくかんで食べよう」
- 第4学年 「野菜を食べよう」 「じょうぶな骨をつくろう」
- 第5学年 「朝ごはんを食べよう」 「魚について知ろう」
- 第6学年 「体によい食事を考えよう」 「お弁当について考えよう」

- 第6学年 「体によい食事を考えよう」



・栄養のバランスを考えた食事をとるために、主食・主菜・副菜のそろった食事を考える学習を行った。ワークシートに示された料理を主食・主菜・副菜のグループに分ける学習活動を通して、自らの食事をふりかえり、児童が栄養のバランスがとれた食事への関心を高めることができた。

- (2) 栄養教諭未配置校の保護者を対象とした給食試食会・食育講話

- 小学校で保護者を対象とした試食会
- 地域女性会を対象とした試食会
  - ・テーマ 「大阪市の学校給食について」
  - 「一日のスタートは朝ごはんから」

- (3) 朝食アンケート（5年生対象）

- (4) 城東区食育連絡調整会議での取組

- 城東区食育展の開催（11月27日～29日）
  - ・城東区の食生活改善推進協議会や子ども・子育てプラザ、保健福祉センター等と協力しながら、食育について広く啓発活動を行う。今回は「朝ごはんについて」をテーマに開催した。栄養教諭が学校で活用し

ている食育教材や児童への配布資料、保護者への啓発資料等を展示した。

○朝食レシピ集の作成および配布



◎大阪市における食育展の実施

大阪市の各区において、保護者を対象とする展示を行なうことにより、「食に関する指導」についての関心を高め、家庭における食育の重要性についての周知を図る。

(内容)

- ・ 授業時間、給食時間に指導している内容や指導教材の掲示
- ・ 保護者や児童が参加・体験できるコーナー
- ・ 給食で使用している食品紹介
- ・ 給食レシピ集の配布
- ・ 朝食に関する内容や給食の嗜好調査等をグラフ等で紹介する



テーマ2

各教科等における食に関する指導の充実を図る方策

◎大阪市における、栄養教諭と担任がおこなう、TTによる各教科の食に関する指導の実践事例を研究

- ・ 第1学年 学級活動 「たべもののはたらきをしよう」  
食べ物の三色食品群についての働きをしり、好き嫌いなく食べようとする態度をそだてる。
- ・ 第2学年 生活科 単元「おおきくなったね」  
学校で育てた野菜の特徴を発表し、夏に実をつけるピーマンやオクラ等が給食でも夏によく使用されている事に気づき、旬について学ぶ。
- ・ 第3学年 体育科 単元「けんこうによい1日」  
健康の保持増進には、1日の生活のしかたが深くかかわっており、1日の生活リズムに合わせて食事、運動、休養・睡眠をとる必要があることを理解する。
- ・ 第4学年 体育科 単元「よりよく育つための生活」  
グループ活動で料理を選びながら栄養のバランスが取れた食事について考えさせ、給食を関連づけながら、よりよく育つための食生活について考える。
- ・ 第5学年 家庭科 単元「元気な毎日と食べ物」  
含まれる栄養素の体内での主な働きにより、食品が三つのグループに分けられることについて理解するとともに、さらに五大栄養素の種類と働きについて理解する。
- ・ 第6学年 理科 単元「ヒトや動物の体のつくりとはたらき」  
ヒトの消化・吸収について、よくかむことが大切であることに気付かせ、給食での実践につなげる。

### テーマ3 校種間を通じた食に関する指導の充実のための方策

#### ◎実践中心区における取組

##### ○幼稚園・保育所と連携した実践

- ・城東幼稚園との交流  
昼食参観と「小学校の給食について」のお話を栄養教諭が行った。
- ・鯉江保育所との食育交流  
水産業者による、「お魚食育」の参観と給食の見学を実施した。
- ・食育展での交流  
城東区で行った食育展で、保育所の子どもたちとの交流を行った。

#### ◎大阪市における小・中学校一貫した食育の取組

- ・「食育つうしん」の配布  
大阪市の中学校には栄養教諭が在籍しないので、小学校の栄養教諭が生徒向けの食育指導資料「食育つうしん」とそれに基づく教師用の指導案を作成し、大阪市の全部の中学校へ配付した。
- ・「中学校給食カレンダー」の作成  
本年度から一部の中学校でデリバリー方式の学校給食が開始したことにともない、栄養教諭が作成する、「小学校標準献立にかかる食に関する指導資料」を参考にして、中学校給食に使用される食材や献立の指導資料となる掲示用の「中学校給食カレンダー」を作成し、給食実施の中学校に配付した。

### テーマ1～3に共通する具体的計画

#### ◎ 実践中心区における食育の推進

1. 実践中心区で家庭・地域と連携した食育を進める。  
6月 城東区食育連絡調整会議  
9月 第1回 「栄養教諭を中核とした食育」に関する検討委員会  
2月 第2回 「栄養教諭を中核とした食育」に関する検討委員会
2. 食に関する実践事例集を作成し、全小中学校及び各区役所へ配付し食育の発信を図る。(3月)

### 本事業における評価指標と考察

- ① 大阪市全域での調査(昨年度→今年度)
  - ・学校給食献立コンクール応募数 118献立→142献立
  - ・小学生朝食の欠食率(5年生) 6.6%→7.0%
  - ・中学生朝食の欠食率(2年生) 13.2%→12.1%
- ② 実践中心区での調査
  - ・小学生朝食の欠食率(5年生) 1.2%→1.5%
  - ・給食の残食率 1.5%→1.0%

学校給食コンクールの応募数は年々増加しており、児童の食に関する関心の高まりがうかがえる。朝食を食べない小学生については市内全体では全国平均と差がある。実践中心区においては欠食率が低く、取組の成果がうかがえるので、さらに食育の充実を進め、全市で朝食を食べないこどもを減らしていく必要がある。また、中学生においては欠食率が高いが減少傾向があり、今後さらに取組を進める必要がある。

## 本事業の成果

- ・実践中心区の施設や団体が交流することにより、区全体でテーマを決めて取り組むことができた。今年度は「一日のスタートは朝ごはんから」をテーマとし、地域の乳幼児から高齢者までを対象とした食育に取り組むことができた。
- ・地域の保育所や幼稚園、食生活改善推進委員協議会、地域女性会等と連携しながら栄養教諭が食育をすすめることにより、小学校における食に関する指導の取組を理解してもらうことができた。また、就学前の子どもたちや保護者に学校給食についての話をすることにより、学校給食について関心を高めることができた。
- ・体育科や家庭科、生活科などの教科や学級活動、総合的な学習で食に関する指導を進めるにあたって、学習内容と食に関する指導のねらいの関連付けや、子どもたちがより理解しやすい教材開発についての研究や検討を進めることができた。
- ・小中の連携による「食に関する指導」の取組として「食育つうしん」の発行や「給食カレンダー」の掲示により、中学校での食育の関心を高め、より充実させることの重要性を認識することができた。
- ・保護者を対象とした食育展を開催した際、栄養バランスのとれた朝食の献立例やいろいろな食品に含まれる栄養素の働きを示すことで、家庭での栄養バランスのとれた食事の大切さについて理解が深まり、学校における食に関する指導の取組を紹介することで、「食育」についての関心が高まった。

## 今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題など)

- ・来年度より市内の全ての中学校において、デリバリー方式による学校給食が実施される。中学校における食育をより進めるために、食に関する指導を小中一貫した教育活動の中に位置づける事が大切であり、各学校で食に関する指導の全体計画にもとづいた年間指導計画を策定していく必要がある。
- ・食に関する指導は、家庭・地域との連携が不可欠である。家庭・地域と連携することにより、学校における食育についての理解を進めることができた。今後は、学校での学習を家庭・地域に返していくような手だてを工夫することが必要である。
- ・実践中心区で取り組んだ地域との連携を大阪市の全区で実施されるように、取組の成果をより広めていく手立てを考える必要がある。また、より地域との連携を深めていく取組を検討していく必要もある。